
領域名：地域保健看護

報告者：伊波良剛・知念真樹

教育及び実践の課題

地域保健看護実習では、本論文にある「保健師の基盤の9項目」を意識して取り組んできた。とくに、「住民や関係機関との信頼関係の構築」、「自己啓発での学び」、「ケース支援などでの倫理的判断」は、実習課題として認識してきた。コロナ禍での遠隔教育や学内実習では、学生は事前学習と実習記録に伴う睡眠不足に陥りやすく、健康管理が後回しになっていた。

活用した論文の概要

わが国の自治体で3年以上勤務している保健師586人の分析データから、包括的なキャリア発達尺度(32項目)が開発された。本尺度の信頼性・妥当性は探索的な因子分析と確認的因子分析により、信頼性はクロンバック α 係数により示された。測定項目は、「地域活動・政策・マネジメント」(第1因子)、「保健師のアイデンティティ」(第2因子)および「保健師としての基盤」(第3因子)である。各因子の具体的な項目として、第1因子は「私は、地域保健の資源や組織を開発、構築することができる」「私は、地域ケアの質をモニタリングすることができる」等14項目。第2因子は「私は、保健師としての仕事に価値があると感じる」「私は、保健師としての職務を全うしたい」等9項目。第3因子は「私は、地域住民や関係機関との信頼関係を築くことができる」「私は、自己啓発で学ぶことができる」「私は、ケース支援や保健活動で倫理的判断ができる」等9項目であった。包括的なキャリア発達尺度の各項目は、5段階のリッカート尺度で測定されていた。

教育及び実践への活用

本尺度の「保健師としての基盤」は、保健師教育でも力を入れたい内容であり、現在の課題にも当てはまる。特に、「住民や関係機関との信頼構築」「自己啓発で学ぶことができる」「自分の身体的・精神的健康を管理できる」および「ケース支援や保健活動で倫理的判断ができる」は、4年次実習を通して強化できないか、現在も模索中である。卒業後の自己啓発力につながるよう、新カリキュラムの4年次の地域保健看護実習Ⅰ・Ⅱで、教員や実習先に関係なく、全学生が自主的に学びを深めるような実習展開を計画している。具体的には、「地域把握シート・アセスメント」や「保健事業の実施・計画・評価」の様式などを用い、自発的に調べてまとめた部分の確認とディスカッションの時間を実習スケジュールに組み込む準備を進めているところである。

参考文献

Saeki K., Hirano M., Honda H., Asahara K. Developing a comprehensive career development scale for public health nurses. *Japan Public Health Nursing*, 2019;7(1):135-143
